京城日日新聞

電話 編輯 三三一番 營業 三八九番

定價 本紙 一ヶ月 金七十錢 三ヶ月 金貳圓
廣告料 五號 一行 金壹圓 六號 一行 金[illegible]
發行兼編輯人 鳥羽[illegible] 印刷人 松崎宗次郎
發行所 朝鮮京城永樂町二丁目七三 京城日日新聞社 振替口座京城八〇三七

東京支局 東京市麴町區下六番町一〇 電話九段一八五〇
大阪支局 大阪市北區堂島中一丁目三六 電話北七五五番

社説

第二の尼港事件
琿春事件　日本居留地襲撃

琿春には九月の中旬馬賊團の襲撃を受けし報道ありしが、更に十二日三百餘名より成る馬賊團は琿春の我日本居留地を襲撃し我領事分館と我居留地に放火し我內地人の死者十餘名、負傷者二十餘名を出し[illegible]猛火の中に包まれ一時危地に陷りしも[illegible]悲慘凄絶の凶報に接したる事は先日の本紙に掲載されたる通りなり[illegible]

[illegible]く、其武器一層精鋭なること尼港のパルチザンの如くならしめ、之に對して我が在留官民の勇敢を缺かば恐らく我が二百內外の在留官民は尼港に於ける夫れの如く殘殺されて一人の生存者を止めざるに至りたるは想像するに難からず、從つて國際上の事件としては尼港事件と何等擇ぶ所無き大事件なり故に尼港事件に就て薩哈嗹島を占領して露國の責任を問はんとせし我帝國としては今回の琿春事件に對して如何の態度を取るかは我國民の一齊に注視する所にして亦世界各國の注視を免れざる所なり、要するに我居留民數十名を殺傷され、我居留地を[illegible]せるは、實に帝國民の生命財産を[illegible]したるのみならず、實に我帝國を侮辱せるの甚だしきものとして支那政府の責任を問ひ、併せて將來に於ける同地方の我在留官民の生命財産の安固を保障すべき確實にして充分なる方法を取らざるべからず

我當局者は之に對して如何の態度を取らんとするか、未だ其決意を[illegible]既に小幡公使をして北京政府に其責を問はしめたりと言へば[illegible]何等かの消息に接するを信ずるが、現內閣の外交に對[illegible]我國民は充分の監視を怠る[illegible]す、嗚呼露領沿海州の北境に於ける我在留官民數人に[illegible]殺害せられ、今や我新領土朝鮮に境せる支那領の邊境に於て我國の國威を傷けられ[illegible]我同胞を虐殺せらる[illegible]帝國の威信失墜の兆として憂無き能はず同憂の士大にべき秋にあらざるか

殖民地概説（六一）
拓殖局編

第六章　殖民地の產業
第五節　商業貿易
朝鮮 貿易

[illegible]稅關は仁川、釜山、元山、鎭南浦、木浦、群山、馬山、城津、淸津及新義州の[illegible]箇所に、[illegible]には稅關支署を、京城、大邱、平壤、[illegible]及龍岩浦の四箇所及國境指定せる各交通地點には稅關出張所を設置し、又安東停車場には稅關官吏を派出す、猶ほ鴨綠江の[illegible]の爲金沿岸を通し十六箇所の監視署を設置す、而して大正七年に於ける收稅額は一千五十八萬六千六百五十五圓なり

六　貿易船舶

朝鮮開港に於ける貿易船舶の出入は輸移出入貨物並通過貿易貨物の增加に伴ひ逐年增加し大正六年に於ては汽船三千九十五隻、帆船八千五百二十隻を算し其大部分は日本船にして外國船は極めて僅少なり

重要輸移出品價額（大正七年）

品名	價額（千圓）
米	六一、五四一
大豆	九、五〇七
人[illegible]	一、二八八
棉花	一、七五〇
繭	一、四[illegible]〇
金	[illegible]
金鑛沙	[illegible]
鐵鑛	[illegible]
重石鑛	一、六三八
石炭	四六七九
黒鉛	五一七
鮮、乾、鹽魚	[illegible]
菜豆	[illegible]
鯨肉	三、八六八
含金銀粗銅	[illegible]
銅（塊及錠）	[illegible]
鐵及軟鋼	[illegible]
牛皮	[illegible]
皮革製造	[illegible]
煙草	[illegible]
生牛	[illegible]
海藻類	[illegible]
肥料	[illegible]
陸接國境輸出品	[illegible]

重要輸移入品價額（大正七年）

品名	價額（千圓）
米	[illegible]
粟	[illegible]
小麥粉	[illegible]
食鹽	[illegible]
砂糖	[illegible]
酒類	[illegible]
毛織物	[illegible]
絹織物	[illegible]
紙類	[illegible]
鐵及鋼	[illegible]
鐵軌	[illegible]
橋梁材料	[illegible]
車輛及船舶	[illegible]
染料、化學藥及製藥	[illegible]
石油	[illegible]
繰綿及打綿	[illegible]
綿織物	[illegible]
綿絲	[illegible]
麻織物	[illegible]
諸機械類	[illegible]
石炭	[illegible]
木材及板	[illegible]
セメント	[illegible]
叺繩及筵	[illegible]
陸接國境輸入品	[illegible]

第二　臺灣　商業

一　本島人の商業

從來本島人の商業は之を大別して問屋業及小賣商の二と爲す、問屋業者は主として對岸及香港より諸貨物を輸入し之を島內各地の小賣商人に卸したるが領臺以後對岸及香港との日用雜貨貿易漸次衰退し之に代り日本品の本島移輸入漸次增加するに至れる結果如上問屋業者は日本品卸商とするに至れり、此に於てか機敏なる土人商は進んで神戶又は大阪に其の店舗を設け直接日本品を仕入れ以て本島內地人商人との競爭を有利ならしめ而かも土人小賣商は其の營業費を要すること尠き爲一割乃至二割の安價を以て賣捌き得るが故に內地人は動もすれば壓倒せらるゝの虞あり、若し內地人が單に內地人たるの感情に依り內地人商人より貨物を購むるの傾向薄らぐに至らんか內地人小賣商は漸次其影を沒すべし、本島人商人從來の決算期は七月及十二月の兩期を以てせるか現今は毎月又は特約を以て之を定むるに至れり、或は內地人問屋との取引の關係に依る

本島に於ける漁業及日用貨物の市場は從來の慣習として街路の秩序及公衆衛生を顧慮せず任意に街路の兩側又は附近の空地等に開設し、其の不規律不潔なる習慣に[illegible]し公衆衛生上到底放任すべからざるを以て、總督府は之が改善を期し先づ組織的市場の設置を促し明治四十四年遂に臺灣市場取締規則を發布し、爾來各地次第に市場の設置を增加し現今に於ては全島を通し市場數百三十三、其の賣上金年額千七八百萬圓を算するに至れり、猶ほ露店以外撤荷の振賣は各市場共に[illegible]

西伯利の管見（四）
教育

露國の子弟教育は概して冷淡にして文明國を以て自認する露國人中自己の姓名すら書き得ざるもの多く且つ定見なく他人に眩惑せられ易く彼等も時事を論し政事を云々し口角泡を飛ばし議論に花を咲かせ得意滿面他說を除け未知の人をして有爲の好男子たるの感あらしむるも彼等は言論の人にして實行の人にあらざるなり、教育上に關し參考となるべきことを掲ぐれば

一、資產家は其子弟の初等教育の爲め家庭教師を傭聘し下級者の子弟又は初等教育機關設置なき他の子弟には家庭に於て自習せしむるに過ぎず

二、家庭に於ける躾は嚴格にして獨立の念を注入せられつゝあり其就職するにも其遊ぶにも然り

三、親は子供に現金を所持せしむることなし故に他家に下宿する子弟の下宿代は親より之を支拂ひ其菓子を欲するときは現品を送附す

四、結婚年齡迄は煙草及酒を嚴禁す

露國人の個人主義は遊戲及娛樂等にも之を及ぼし學生も共同動作を要する遊戲を試みるものなく一般露國人の遊戲及娛樂として記すべきは芝居「シヤンタン」活動寫眞、競馬、突球、ロトウ及カルタなり突球及ロトウ、カルタは賭博の具に使用せられ競馬は馬券の賣買に依り賭博を決し此して得たる[illegible]なる露國人は芝居、シヤンタン及活動寫眞等に浪費せらるゝなり近時に至り野球及庭球を試みるものを生ずると謂ふ

露國は革命に次ぐに過激派の跋扈跳梁と共に無政府狀態に陷り無辜の良民は[illegible]する處を知らず生活の逼迫安寧秩序の紊亂は彼等を困憊塗炭に呻吟せしめ[illegible]日是れ許さざる[illegible]なるに個人主義たる彼等の精神上には國の滅亡は何等の打撃を與へざるにや娛樂機關及び生活難に襲撃せらるゝも娛樂費に厭せず社會の安寧秩序紊亂と共に男女關係は益々紊れ是等の娛樂の濫勢を認むる能はざるは當然ならんか

一、シヤミタン

市街內に多數の食卓を配列しあるは普通席にして二階に小部屋を設け一食卓を配列するは特等席にして之等の食卓を圍繞し構內にて仕出する料理及飲酒に舌鼓を打ち舞臺に於て歌舞音曲に[illegible]俳優の品定に熱中し自己の[illegible]したるものあれば[illegible]以て場錢を取らさる是れ「シヤンタン」なりシヤンタンは通常午後十一時頃開演し[illegible]の樂器は男子に因り彈せられ女子は踊るあり踊るあり或は男女手を携へて踊るある裸體と云ふも裸體には非るなり

二、活動寫眞

活動寫眞館には日本の如き辯士なく其寫眞の說明は「フヰルム」により撮影之に代ゆるを以て觀客の都合にして見物者の耳を[illegible]さからしむる感あるも其材料は女男關係のもの多く淫靡なる感を民をして益々之に傾かしむる感あり

三、芝居

近時の芝居は日本の新派劇と大差なく悲喜劇を演じ時に日本服を着し歌劇を演ずることあり

四、突球

一臺より十五臺迄の十五の球と親玉一とよりなり得點を競ふものとす

日日歌壇（投稿歡迎）
一人五首以內編輯局文藝係宛

夏の歌　骨々子

戶を繰ればポプラの花はしづに落つ晝さ庭邊の叢におつ

おそ夏の夕餉の膳に青桐の葉落[illegible]れて風情すなり

家ながれ山は崩ると噂する雨宵きつゝ夜を淋しむ

山脈のくぼみに低き草の家に煙は立てり秋のたそがれ

想像して　馬場寬

みごもりし女のゆるく歩み行く裝綿はらいて秋の風吹く

かはたれの小暗き街ゆしばられて行く鮮人の輕き足音

異國の秋かはたれの街に響く鮮妓の唄に夜は更くらしも

創作
熱光の下を（二五）
曉谷

「藤本?矢張り藤本つてんだらう知つてるよ、青い繪をかく男だ」

「そしてね、大連に來ないか、月に三百圓位にはなるから世話して上げやうと言つてましたワ」

「大連に?月給で三百圓かね。行つて見たいなア」

三百圓と聞くと空中に飛び上つたやうに思つた。貧しい畫學校時代から今日まで、まだ二百圓と纏まつた金を一度も見たことの無い私だつた。朝から晩までぶつ通しに繪をかいても、一ト月に二百の金は得られなかつた。

「行つて見たいね、三百圓の收入はなくつても好い、半分でも好いから滿洲あたりの生活がしてみたいと思ふね」

「貴郎、行きますの。でも、貴郎が迚も行く氣にはなるまいと思つて何とも確乎した返事はせずに置きましたの」

「行くよ、內地でいぢけた生活をして埋もれて終ふよりは大陸の空氣を腹一杯に吸つて、下らぬ[illegible]を忘れて生活したい」

「[illegible]好いんですよ。貴郎は[illegible]處も澤山あるし、第一五月蠅くない」

「その三百圓も收へると云ふ所は[illegible]どんな處かい」

「何でも、ツキンドウの剛毅を描く人がゐないとか言つてましたよ。だから金は儲かるんですつて」

「儲かる儲からぬは何うでも好いが、兎に角行つてみたいね」

「えゝ乾度好いワ。妾の知つた人も隨分彼在るし、親切にして下すつた先生方も彼在るから」

「でも藤本と云ふ人は何んでも[illegible]が餌てるのかね」

「えゝ。よく何處でも知つてらつしやる樣ですの。だから來さえすればどんなにでもお世話して上げやうと言つてるんですの」

私は最う滿洲のことを空想に描いてゐた。アカシヤの花やポプラの並木――驢馬に乘つた足の小さい支那婦人、さうした話題になりさうな風物が眼を瞑つてゐると頭の中に浮かんで來るのだつた。

「でも見すぼらしい服裝では行けませんワね、友達も多勢ゐるし」

お前は急に夢が醒めたやうに言つた。同時に私の空想も煙の樣に消えて行つた。

「それよりも旅費だつて百や二百は無けりや心細いね」

「旅費もだけど、お父さんやお母さんが許して下さるか知ら」

「其處まで拘束されやしないさ。嫁を貰つてからまで何にも束縛することはしまいぢやないか。唯お阿母達は、俺を何日までも子供の樣な氣でゐるんだよ。だから心配で堪らないんだ。親父さんが時々コツソリとやつて來るのも、旨く行つてるだらうか、困つてやしまいだらうかと思つてるんだよ」

斯う言つた時は私も幾分か感傷的[illegible]が挽けてゐた。愈行くとなれば先方のことも充分決めてからでないと乘出せないと思つた。以前の私なら唯元氣に委せて無鐵砲に飛出したものだが、妻と云ふ者の運命まで背負つてゐるのでは、極めて臆病な考へに戻つて、消極的な計畫に陷るばかりだつた。

寺岡に組んだ新聞社の方も、社長の池田さんが腸チブスに擱つて入院してからは一向話しの埒がつかずに居つた。

お前は寺岡さんは當にならぬからと言ひ出しした。寺岡や松村も何とか旨く纏めて入社の運びにしてやりたいと言つてゐたが無職に時日が經つ許りだつた。

私はもうすつかりその時の生活に飽きてゐたので、何處かに一路を見出したいと焦慮つてゐた。宮崎の姉のところへ押しかけて行かうかとも考へてゐた。けれ共、貞造に夫婦で押しかけて行くだけの勇氣はなかつた。

師走の脈搏さがつのると共に、お前は一日と落ちつかぬ心持ちの內に正月近くなつて來た。方々に拂ひを濟ましてゐる內に、迚も跡の三圓目もあるのを用意するだけの餘裕はなくなつてゐた。

お前が方々の針仕事を仕上て懸つた頃にはもう大晦日迄三日許りしか殘つてゐなかつた。



内外電報

愛蘭問題逐次惡化

對友借款拒絶決定

莫斯科執行委員批難

過派第四軍捕縛

……全部捕縛せられ捕虜二十六砲野砲百六十六門野砲……方面に進出しパラノウエ……に成功を收めつゝありと(伯林來電)

佛守備隊放逐計劃

……地方に於て佛國守備隊を……新聞紙より出でたる報道……

露管理問題決定

……外交團にて管理すること……部局の存在と其職權とを……に於ける商業上の交渉を……決定したり(北京來電)

東支鐵道借款調印

……成立し近く調印するに至るべし(北京來電)

孟將軍奉天入城
張作霖の身邊益多事

關税率引上困難

……の反對に依り不可能となら……

最高委員會と米國

……委員會の設置に就きては米國……

浦鹽政府に望去る
露國某技師談

……アンドレーエヴ氏說に依……全く信用なしと云ふも過言……(東京來電)

研究會幹部改造

研究會幹部改選さるべく官僚主義を執らざることゝせん意向なり(東京來電)

米輸入税復活近し

米の輸入税は近く復活さるべし其時機は尚未定なりと(東京來電)

明年度豫算概算案
自然増收五千萬圓に對する大藏省の警戒

大藏省に於ける大正十年度各省豫算概算案は約二十億圓にて是れが査定に當りては大斧鉞を要する次第なるが大正十年度の歳入は九年度の實行豫算十三億三千五百三十五萬五千圓に税法改正に依り生ずる所得税九千三百三十四萬二千圓酒税三千九百廿三萬三千圓合計一億三千二百五十七萬五千圓を増加し十四億七千七百九十三萬圓にて是れに對し大藏省は少くも五千萬圓位の自然增收を見込み居れり然るに昨今財界の不況は果して右の如く自然增收を見込み得るや先づ租税より見るも所得税の第一種法人に對する課税標準は大正七年度を基礎とし大正八年度の實績に依り又第三種勤勞所得税は大正八年度の實況を斟酌して課税する次第なるが第一種法人所得税を財界不況の影響を受けて歳入の缺陷を生ずるやも知れぬが即ち財界好況時代五割乃至十割の配當を行ひたる紡績會社は原棉の大暴落に加ふるに綿糸界の還元問題を生ずる等最も悲慘なる狀態にあり斯くの如くんば所得超過税は固より社內留保金にも影響を及ぼすべく紡績會社以外にありても亦此種の打撃を受け居ることとなるべく更に第三種勤勞所得にありても財界不況の結果少からず所得税の上に影響を與ふべし又酒税の如きも一石十圓の増税を決行したりとするも釀造石數の激減は歳入の上に影響を及ぼし印紙收入亦同様の打撃あるべく大藏省にありては多少是等の現狀に對して警戒をなし居れるが如く最近勝田税課長を拔擢して東京税務監督局長に轉任せしめたるも是等の事情に鑑みてなるべし(東京來電)

兩派總會
上院

六日午後一時より茶話、同成兩派は華族俱樂部に總會を開き對米問題其他につき協議する筈(東京來電)

司法官會議

司法省にては本月二十八日より五日間各控訴院長檢事長裁判所長檢事正等を本省に召集し會議を開くことに決定せりと(東京來電)

公正會分科會

四日午前十時より貴族院公正會第六分科會を開き理事佐竹義準、辻太郎兩男爵其の他數名出席し政府より赤池警務局長の出席を求め最近朝鮮の統治上の一般並に不逞鮮人出沒の狀況其他に關し二時間餘に亘り說明あり之に對し二三の質疑應答ありて正午過ぎ散會せり(東京來電)

鐵道員へ宣言書

日本軍司令官は鐵道從業員に宛たる宣言書中に述べて曰く日本軍撤退に關聯して鐵道從業員が蒙りたる勤務に鑑がみ日本軍は同從業員の未拂賃金を補償する爲め三十萬圓を露國鐵道管理に交附すると同時に日本軍は鐵道從業員に對し食糧を無料にて供給し又は求めに依り最も廉價にて拂下ぐべし(浦鹽來電)

米作良好
農商務省續報

農商務省發表本年新米作狀況は昨電の如くなるが其後の詳報次の如し本年の米作は……に於て順調ならざる地方少からざりしも移植後は概ね順調にして生育良好分蘖旺盛且害蟲の發生少かりしを以て八月及び九月に於て概して順調な……

釜山正米大暴落

……日正米大暴落を約三圓安となり……

日曜學校大會開催

……の議題は「日曜學校と世界の進歩」なりと(東京來電)

入超三億圓豫想

……三億圓に達すべき豫想なり

川上理事辭職

……川上理事は四日依願……(東京來電)

仁川取引所株主總會

仁川米豆取引所は三日午後一時より……會を開き……總會は來る二十日午前十時より……

……

十、七時より京喜久に於て仁川在住……と(仁川)

緩衝國と購買組合

浦鹽政府の代表者ニキエロフ氏等が莫斯科に向ひて出發以來の消息未だ確報に接せざるも兎角勞農政府と該代表者の協議の上は、極東緩衝國問題に關しては進捗を見るに至るべしとするは妥當なるが如し緩衝國實現の效果として第一に吾人の注意を喚起すべきは、勞農政府に對する通商關係の復活に在りて……

商銀異動

朝鮮商業銀行にては今回左の如く異動あり

依願退職　平壤支店長　寺本壽次
本店勤務(群山支店長)　大森　彥忠
群山支店長(仁川次席)　石井利三郎
仁川支店次席(利川支店長)　藤原　吉久
利川支店長(本店庶務主任)　小賀　鐵朔
本店庶務主任(本店營業課)　市川　壯夫

大森氏は多分營業課に勤務すべし

仁取今期損益決算

仁川米豆取引所にては二十日午後一時より九年度上半期總會を舉行する事に決定したるが今期損益計算は左の如し

利益の部
賣買手數料　金七十七萬八千七百九十八圓五十錢
雜收入　金五萬七千八百十三圓五十二錢
合計　金八十三萬六千六百十二圓〇二錢

損失の部
諸經費　金十四萬五千〈百四十九圓卅錢〉
取引不能損失金　金十三萬九千九百六十圓三十三錢
純益金　金五十五萬八百二圓三十八錢
合計　金八十三萬六千六百十二圓〇二錢

而して當期利益金に前期繰越金一萬八千百七十三圓二十九錢を加へ
合計　金五十六萬八千九百七十五圓六十七錢
之を處分すること左の如し
賠償責任準備積立金　金二十一萬圓也
所有物價償却積立金　金五千圓也
役員退職給與基金　金三千五百圓也
役員賞與金　金三萬圓也
普通配當金(舊株)一株五圓(新株)一株四圓　年二割
特別配當金(舊株)一株十圓(新株)一株八圓　年四割
臨時配當金(舊株)一株三圓(新株)一株三圓　年一割
五分
後期繰越金　金一萬七千百圓六十七錢

滿洲に於ける東拓事業擴張
大いに研究の餘地あり
石塚東拓總裁車中談

石塚東拓總裁は淸水秘書役及び釜山迄出迎へたる鈴木京城支店長等と共に四日午後八時南大門驛着列車にて入京官民の出迎ひを受け直に朝鮮ホテルに入れり氏今後の旅程は未定なるも京城滯在一週間位にて滿洲に向ひ哈爾賓を視察の上奉天に引返し天津北京を經て濟南より青島に出て海路歸京此間約四十日の豫定なりと氏は鳥致院驛に出迎へたる記者に對し快活に左の如く語る

内地財界の悲境は今や其極に達し各方面とも縮手を取らざるものなき有樣なり現に大阪市の如き煙突の都と稱せられ林立せる煙突の多きを以て大なる誇りとなし來れるに拘らず最近の慘狀は豫想の外にて家庭工業の目標たる小煙突すら煙を吐かざる狀態にあり財界救濟問題は各方面に於て……叫ばれつゝあるを現今の狀況にては急速の恢復は聊か疑問なき能はず要は高低度なき物價の平均を圖るを最大急務なりとせずや例へば賣買と小賣との如き之れにして一度之等の平衡を圖り徐々に恢復期を俟つは尤も健實なる策とすべし過日募集せる東拓五百萬圓の募集は頗る順調に進捗したるが財界に資金多きは爭はれざる事實なり東拓にては資本額五千萬圓に對する十倍の公募力を有するを以て事業の遂行上多々倍々要償したきも如何せん政府の公債政策と抒格なきを期する下に於て苦心の存するは致方もなし米價の下落は直接東拓に影響すること勿論なるも會社は單に小作米のみにて存立するものに非ず殊に最近の東拓は他に多大の事業を營み居りて寧ろ收納米の如きは餘し多く重きを置し居らざ……

朝鮮海事支部發會式

朝鮮海事會仁川支部發會式は二日午後二時より基督教青年會樓上に於て開催されたり出席者無慮百名京城本部より竹內遞信局長野手海事課長其外七名列席熊野支部長の開會の辭に次ぎ局長の挨拶あり、吉松府尹來賓總代として祝辭を陳べ直に宴に移り來賓各員一同起立支部の發展を祝し乾盃を行ひ四時近く各自退散せり因に同支部附屬の玉突場は青年會内の一室を共同使用して會員の娛樂に供へ又目下工事中なる庭球場も近く竣成の上一般希望者に使用せしむるに至る可く圖書室は同じく青年會從來設備の一室を使用するとの由なり(仁川)

告示

遞信局管理事務を分掌する郵便局……

南洋の產業狀態
大谷光瑞師談

……

最近

……

食料

……

勝貴

して白米百斤二十三……ギルソ(日本の十六圓五十錢位)を呼んで居たがスラバヤ知事は白米百斤十八ギルソ(日本の十二圓位)以上に賣ることを禁じ若し禁を犯すものは罰金刑に處することを……

勞銀

……

產業

……

砂糖

……何でも要求に應ずると云ふのは……砂糖製造の時期は七月から十一月までストライキの爲めに閉鎖されて居た砂糖工場は自分が八月上旬出發の頃から大半事業を開始して居た。(つゞく)

司法官會議日程

本六日より開催さるべき裁判所及檢事局監督官會議日程及會場左の如し

十月六日午後一時より午後四時
一、總督訓示
二、各覆審法院長、同檢事長管內狀況報告(報告者官氏名左の如し)
京城覆審法院長、城數　京城覆審法院檢事長
平壤地方法院長(平壤覆審法院長代理にて)
中村前京城覆審法院長
中山大郎京城覆審法院檢事長
松寺前平壤覆審法院長
十月七日
一、法務局長の法務事項
二、高等法院判事の下級裁判所に對する注意及希望
三、覆審法院、同檢事長、地方法院及同檢事正の高等法院に對する希望
四、檢事局より檢事局に對する希望
五、檢事局より裁判所に對する希望
十月八日
午前　法務局各課長と會同各官
午後　法務局長各覆審法院長及各地方法院長と接見
十月九日
午前
午後
一、會同各官事務打合
一、法務局、各覆審法院檢事及各地法院檢事正と接見
一、會場は第一日は總督府第二會議室第二日以後は總督府法務局會議室とす
一、會議は午前九時より正午迄とし午後一時より同四時迄とす但し第一日は午後より同四時迄とす

會計實地檢查豫定

朝鮮に於ける會計實地檢查執行の爲め入京せる會計檢査院檢查官大澤清高氏の各地檢查執行豫定日割左の如し

十月五日より十二日迄　新義州各官衙
十三日より二十三日迄　義州
二十四日より二十六日迄　定州
二十七日より三十日迄　鎭南浦　同
三十一日より三日迄　　
十一月四日より七日迄　　
八日より十六日迄　平壤
十八日　京城　各官衙

拓殖銀理事披露宴

……

人事

▲松永武吉氏(外事課長)　五日午前九時卅分釜山より歸京
▲安藤源平氏(滿鐵)　同刻入京
▲米倉博士(撫順炭鑛長)　同刻入京
▲張憲植氏(忠北知事)　九時五十分鳥致院へ
▲岩本元檢事長(高等法院)　同刻內地へ
▲山口元總務課長(司法部)　同刻內地へ
▲臨平壤覆審法院長　四日午後六時五十分着京城不知火旅館へ投宿
▲杉村檢事正(平壤地方法院)　同刻八京天眞樓へ
▲柳澤地方法院長(平壤)　同不知火旅館へ
▲大谷光瑞氏(東本願寺前法主)　同朝鮮ホテルへ
▲岡本地方法院長(咸興)　同山本旅館へ
▲長尾檢事正(咸興地方法院)　同不知火旅館へ
▲薬工博士　同日午後七時廿分發東京へ
▲菊池地方法院長(公州)　同巴城館
▲久保田檢事正(公州地方法院)　同
▲石塚東拓總裁　同東京より入京
▲古賀憲兵大尉　同公州より歸京
▲津森光州地方法院長　同午後六時廿五分入京巴城館へ
▲齋藤フミ(ショウの妻)　同安東縣より入京
▲稲本左五郎氏(勸業模範場技師)は四日附江原平北道管內へ內張被命

風塵錄

去三十日の夜東京横濱地方面に暴風雨起り、東京横濱の各地も出水多く土砂の崩壞で家屋の流失、人畜の死傷等あり大騷動であつた、內地は九月前後は年々暴風雨で閉口して居る、朝鮮は內地のやうに秋の暴風雨は滅多に無い、是丈けは朝鮮は安全である▲露國も愈々亡國の破局に屈伏したらしい、過激派も斯う戰爭に弱くては國家の維持は困難である▲從來軍隊では苟も上長官には絕對服從を强られて居つたが、今回上官の命令に不服ある場合は一階級の上の上官に筆記上申することを許されることになつたさうな、軍隊にもぼつ／＼個人の人格なるものを認められるやうになつたのは結構である▲米國では自分の國內の事は自分の自由である、自分の國に日本人を入れないと云ふて排日をやつたからとて何の文句があろうか夫れに文句を云ふのは日本が小癪だと威張りきい許りが能では無い、日本人の日本ではナニ金があつて國體が大和魂の恐ろしさを知つて居る大和魂の恐ろしさを知つて居るかと威張り合ふて居る、準備をどちらが先に出すかが見物だ、然し準備無しに濟むかも知れぬが暫く見物だ▲龍山鐵道病院では先頃職員が俸給値上問題でストライキをやつたと云ふことである、如何に黄金萬能主義の世の中とは言へお醫者さん迄が、職工根性を出したり、ヨボ根性を出しては見つとも無い、餘い時世も末路だワイ

株式界

……

商況

五日大阪入電前寄

大株	九九、〇〇
同新	一〇〇、〇〇
郵船	一四四、〇〇
同新	四六、〇〇
商船	五九、四〇
鐘紡	七四、九〇
同新	二〇一、八〇
東紡	一七八、五〇
上取	七一、七〇
	三九、九〇

五日東京入電

鮮銀	一一〇、〇〇
同新	三一、五〇
東新	四五、五〇
同新	一二、二〇
満鐵	一九、〇〇
同新	一五、〇〇
鐵新	四五、〇〇
東新	一五、〇〇
株取	〇九、〇〇
東取	三六、〇〇

京株市場出來値(五日)

銘柄	前場	後場
京取	一八〇、〇〇	一八〇、〇〇
同新	一八一、〇〇	一八三、〇〇
殖新	一三、八〇	
銀新	二六、二〇	
東新		
拓東		
亞新		
仁取		
鮮銀		
同新	三一、六〇	三一、〇〇
殖銀		
實銀		八、四〇
商銀		
同新		
漢銀		
同新		
韓一		
東拓		
鮮土		
朝紡		
瑞手		
京電		
同新		
瓦電		
帝東		
東亞		
朝煙		
朝郵		
旅鐵		
同鐵		
中新		
滿鐵	六、二〇	
同新		
朝紙		
滿粉		
同新		
東畜		
朝皮		

仁川期米特電
十月五日前場

	寄	止	高	安	公
當限	三一、〇〇				
中限	三一、〇〇				
先限	三〇、〇〇				

東京期米特電
十月五日前場

中限止め　二十六圓八十九錢
先限寄附　圓
先限止め　圓

大阪期米特電
九月五十日前場

節	當限	中限	先限
一節			二八、三〇
二節			二八、三一
三節			二八、四九
四節			二八、四九
五節			二八、四六
六節			二八、四七
七節			二八、五一
八節			二八、五一
九節			二八、五三
十節		二六、二六	二八、六一

十月五日後場

節	當限	中限	先限
一節			二八、四八
二節			二八、五一
三節			二八、五九
四節			二八、五八
五節			二八、四〇
六節			二八、九九

京阪金利(四日現在)

	東京	大阪
コール		
無條件	三、〇〇	
翌日物	三、〇〇	
六十日物	一九、〇〇	三、〇〇
普通步合	六、〇〇	六、〇〇

日銀帳況(二日現在)

發行高	一、一四、五六八
正貨準備	一、〇八、三三〇
發行餘力	三五、六三
貸出高	三六一、〇六五

鮮銀券日報(四日現在)

發行高	一六四、〇六〇、三五五
正貨準備	四八、一七六、〇七〇
限外發行	—

支局開設

大連支局
大連市山縣通三十二番地
支局長　野尻要次郎
右支局開設致候に付諸君候也
京城日日新聞社

慘虐血火の跡 琿春事件の後報

賊徒の死傷多數なり 軍隊出動警官急行

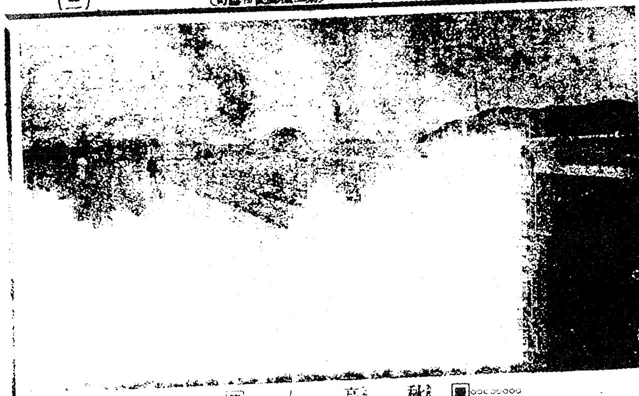
琿春に襲來せる馬賊團は約一百の過激化せる露國人を加へたる約七百の馬賊團なるが該馬賊團襲來當時琿春には支那側の軍隊歩兵一營約二百五十名駐屯し他の工兵一營は附近に出動中なりし模様にて日本側我が領事館分館警察署員は署長以下僅かに三十二名に過ぎざるが揮春の状況不穩なるに鑑み豫て咸鏡北道國境警察署にては出動準備を整へたる四十名の警官隊あり琿春に火の手揚るや即刻出動したる模様なるが遂に同胞死傷者三十六内死者十數名を出し分館警察署長總督府より派遣の澁谷警部以下奮鬪力戰遂に戰死したるが敵も四十の屍體を現場に遺棄せるより推せば多大の死傷ありたるものらしきも詳細不明なり急報に接したる咸鏡北道訓戒駐屯の我國境守備隊よりは即刻八十名の將士出動其後も多數琿春救援の爲め急行せるも馬賊團は同二日午前九時半頃全く北方に遁走せりと(琿春來電)

對支交渉開始

琿春事件は極めて重大問題なれば赤塚總領事は三日日曜にも拘らず交渉署を訪問し直に交渉を開始すべく打合せする所ありたり(奉天來電)

琿春を襲つたは 純粋の馬賊團 鮮人露人の混入説は 虚報らしいと警務局談

琿春領事館馬賊襲擊に關し警務局に達したる報告に據れば派遣警部は射殺され其他邦人の死傷者三十六名にして內死亡の發表する所によれば馬賊は純然たる馬賊なるものゝ如く露人鮮人の混入し居れりと云ふは虚報らしく其後共産團琿春中にて未だ確たる報道に接せず而して琿春には支那軍隊歩兵一營及工兵一營を駐屯せしめ居れるも當時二兵は他に出動中にて歩兵一營即ち二百五十名なりしと云ふ尚我警察署員は常任二十二名にして憲隊よりは何時にても出動せしめ得べき警官三十餘名を有し第一回應援隊として四十名を出發せしめたり尚憲兵隊者十二三名あり他は重傷者なり馬賊の死傷者は不明なるも屍體を遺棄せるものゝみにしても四十あり其他馬車にて運び出される者も多數ある模様なり是等多數の死傷者は要するに警察隊の活動振の如何に猛烈なりしかを示すものなり九月十二日初回の襲撃の際も支那軍隊は何等の活動をなさず暗甲斐なさを見せたるに徵するも馬賊團の死傷者は我警官隊の力に依ること明瞭なりしと云ふべく避難民は河



秋高し

政談を避けて 南洋の御土産談 一農夫だから政談等は判らないよと 大谷師入京す

既報の如く大谷光瑞師は四日午後六時三十分南大門着列車にて入京ひけん伯は急遽龍山驛に下車し猿頭名數の出迎人ありたるも何れも驛頭に殺到したる朝鮮ホテル自働車に打ち乘り直にホテルに投宿五日朝來頻繁なる訪問客を例の如く快辯を弄して煙に卷き六日朝出發內地に向ふ筈なり氏は往訪の記者に語る

「今日の私は御覧の通りの一農夫であるから

政治問題

は一切御免を蒙らう赤……十町歩は水田あとは未墾の荒蕪地である香水の原料草チトロネラは成績頗る良好であつて目下歐州に向つて盛に

輸出して

居りチト、ロネラの副作としてカポフクをも栽培して居るが尠くとも今年は六十斤以上の綿が採れる見込である畓は一反に日米一石の收穫と言ふ豫算で本年は約五百石の米を採り得る斷定で畓も決して望みないものではない自信して居る。明

土耳古皇太子 毒藥自殺を圖る

紅燈私娼 ローマンス（三） シベリヤに泣く女

平北地方の不逞漢蠢動す

村上中尉墜落

國境に通信機關を設置

時代に適した國字國語の改良 學者教育家新聞記者の粹を蒐めて調査會 明年度に於ける文部省の企て

内地では却つて煙草の賣行減少

巡査殺し 犯人逮捕

醉客の墜落轢死

三面拔萃帖

小説 判官 照手姫 (九十)

旭亭櫻山口演 舟 蓄

猿八郎の命を擬ふ

八郎ウーンと全身の力を現し、誠の手綱を掴んで投げやうとするけれども全で手に力が入らない、足を踏張らうとすると身體が伸れて一向に力が出ない、此の有様でございますから、到頭荒縄で雁字一つの丸裸體にされ、小賊共大勢でグルグルに縛き、猿の地獄谷といふに擔がれて、谷の端し出して居る松の木へ、それへ身體を吊るされた、小賊共は面白がつてグルグルグル廻し始める、八郎見ると、夜目で確とは分らんけれども、此の谷の深さは十丈や二十丈位のものでない、此の縄の絆が戻つて切れると共に、我は谷底へ落ちて行くか、アア落ちればモウ其れつきりだ、と云ひながら吊るしてある縄を…

…の液が咽喉へ入る、又猿が持つて來ては、口へ入れるから、拠所なく噛み碎いて汁を咽喉へ入れる、斯くすること三度ばかり其中に非常に摑み出した八郎吃驚して、猿めが何か惡い物を口へ入れたと思ふ間もあらばこそ、尾籠なお話でございますが、口中よりガツと苦しい物を吐き出した其時には苦痛であつたが、跡がスツパリとして誠に好い心持ちになりました、猿は松の木の枝に腰を掛けて、八郎の様子を見て居りましたが、之れを見てキイキイと云ひながら…



…らん事になつた、斯う知つたらば、後藤兄弟や池庄司の云ふ事を聞いて、此の山を登らなければ宜かつた、一時は留めて見れたけれども、捕者の氣性として云ひ出したら留めても留らんと思ふから、後藤等も手放して出して寄越したが、此處で今死ぬといふことも知らず、アノ四人が何時までも待受けて居るだらう、飛んだことになつて、縄を切らうとする、八郎又驚いて、此の縄を切られては大變、地獄谷へ眞逆落しになる、畜生どういふ心持ちで斯んな事をするか、縄を切つてはならんといふ中に、ブツブツと縄が切れ掛つた、八郎モウ何の考へもない、實に之が一生の命といふのでございませう、殆んど夢中になつて松の根方の方へ飛ぶと、此の時縄はプツツリ切れて身體は大地へゴロゴロと轉がつた途端に兩の手足へ力を入れると、今まで少しも力の入らなかつたものが確に本に復した樣子に、我を忘れて立上つて見ると、以前に居た猿は、キイキイ云ひながら其の上へ指さしをする、…

…つたと、恐る恐るを怖して居る、其の中に何も彼も見えなくなつて、全で死人同様なれども身體は縄に絡れてクルクル廻つて居ります、少時あつて縄の斷れも返つたが、幸ひ切れて落ちもしない、不圖氣が附いて向ふを見ると、何だか岩角の所に人の形をした者が見える、入郎眼を定めて能く見ると、人間に等しい大きな猿が、頻りに此方を見て居りましたが、やがてペラペラと其松の木の下まで驅け寄り、チョイチョイと枝へ攀ぢ上つて、何やら八郎の口へ入れた、何を入れて呉れたかと噛み破いて見ると苦いもので、其…

…居た猿は、ヤレ嬉しやとホツと息を吐いた入郎を、松の上で見て居た猿は、キイキイ云ひながら其の山の上へ指さしをする、頻りに向ふの山へ下りて參り、何かは知らぬが此の猿は我が命を助けて呉れた大恩のある者と思ふゆゑ、八郎は抱き締めて言葉やさしく「八…

京城本町二ノ一〇三
吳服 京染 吉岡出張店
電話二〇八一番

京城本町五ノ三六
吳服 京染 綿糸色染 洗張湯熨
蝶屋染元
山 路 與 一

演藝案内

黄金館 黄金町 電話二二六六・二六三七
活動寫眞會社特約
當る十月二日より名畫替 一回分の間四日間毎に
泰西活劇 **復 活**
伊太利アムブロージオ會社特作
泰西社會劇 **勞働者ガラオ** 前後四篇八卷の内 前篇二篇四卷上場
(原名勞働階級の涙)
世界の人心を動かしたる勞働問題を根底となしたる名作?血涙無き無慈悲なる工場主に對し勞働者は如何にせまり居るか?資本家と大秘密?巨大なる體格と非常な腕力家勞働者ガラオは大道に於て數萬の群集の前に立ち熱烈なる演説をなす是れ何を語るか痛わき肉踊る男性的氣分を充分現したる近來稀の作品
新派現代悲劇 **岩にせかれて** 全七卷 新加入秋本菊彌一派
都新聞全國俳優人氣投票にて非常な高點に有る秋本菊彌出演
連續冒險大活劇 **名 金** 全二十二篇四十四卷の内 第十三、十四、十五篇 六卷上場
米國ユ社の傑作活劇 名金の價值は今日に於て實に何物にも比類なき大冒險活劇 毎日十五日晝夜開館

大正館 櫻井町 電話八七三
日本活動寫眞株式會社朝鮮代理店
當る十月一日より秋季特別大興行
●喜劇「歐米人娛樂」五尺
●喜劇「トン君の飲酒」三尺
尾上松之助の大活躍
舊劇 **龍神灘右エ門** 全五卷
源家忠臣朝比奈三郎の臣梅賀太郎は主家の仇を報ふ假名を用ひ恨みを晴す忠臣美談
正劇 **皮の鞭** 全五卷
米國ラスキー會社傑作
名優マリー・ドロ嬢エリオット・デクスター氏主役の泰西哀話
新派悲劇 **生さぬ仲** 前篇全七卷
山本、東、菊野一派新規大撮影 故柳川春葉先生大作
日活十大悲劇の一にして「不如歸」と並び稱せらるゝ新派の代表劇にて背景其他は悉く原作の妙味を具體的に表示すべく新たなる撮影術に依り遺憾なく完成せる點は過去上場せるものゝ比に非ず
入場料特に普通
毎月一日・十五日・日曜日・祭日晝夜開館

喜樂館 本町一丁目 電話五九七番
當る十月一日より新三大映畫提供
日活直營
○新馬鹿の銀行員
○滑稽 奇なる贈物
日活向島派最近の傑作
新派悲劇 **松の操** 全五卷
色とりどりの綺筆を使ふ畫家と三筋の絲に撥を操る藝者桃香とが松の操の楚千代かけて變らぬ戀も儚い嵐に昭まれて哀しくも儚なく消ゆる悲戀の命
○米國ウイリアム・ハート・プロダクション作
人情劇 **アラスカの地獄丈** 全五卷
快漢エス・ハート氏の演ずる同國特意の西部劇で輕快なる優の動作巧みな表情に映畫は光り輝くやうに見え弁説明主任は石田旭花君の擔當です
日活關西派第一部新撮影
舊劇 **槍の權三** 全八卷
尾上松之助得意の武術傳
○日本一の名畫家

壽 館 本町 電話七八五
六日より
第一番組 ●喜歌劇 お今は大下の廻り持ち 一場
第二、●樂曲 三ツの林檎 二場
第三、木の兵隊 ダンス
第四、カフヱーの夜 オペレット 一場
第五、大喜歌劇 ウララとヘレナ 二場
演藝監督主任 名村春操
音樂指揮 朝野雪夫
總務 伊藤榮之

朝鮮郵船

元山出帆 (取扱店吉田運輸會社)

大阪行	十月十三日	京城丸
下關行	十月十四日	京畿丸
元原道行	十月七日	咸鏡丸
敦賀行	十月十七日	立神丸
清津行	十月十二日	立神丸
雄基行	十月十五日	會寧丸
浦鹽行	十月七日	濟津丸

釜山出帆 (取扱店大池回漕部)

大阪行	十月十五日	濟津丸
大阪行	十月八日	新義州丸
下關行	十月八日	寧會丸
新義州行	十月七日	雄基丸
北鮮行	十月十三日	會寧丸
浦鹽行	十月十五日	平安丸
鬱陵島行	十月十七日	金海丸
江原道行	十月六日	鏡城丸
濟州島行	十月七日	昌平丸
木浦行	十月七日	昌原丸

木浦出帆 (取扱店山野回漕部)

大阪行	十月八日	新義州丸
釜山行	十月七日	濟州丸
濟州島行	十月六日	公州丸
多島海行	十月十二日	公州丸
仁川行	十月七日	全州丸
新義州行	十月八日	雄基丸

仁川出帆 (取扱店堀回漕部)

大阪行	十月六日	新義州丸
新義州行	十月十二日	雄基丸
木浦行	十月十二日	全州丸
海州行	十月	休航
鎭南浦行	十月十二日	敦賀丸
青島行	十月十四日	江原丸

朝鮮郵船株式會社 電話 番
釜山支店 電話一八四番 釜山佐藤町
元山出張所 電話四六四番 元山海岸町
京城取扱店 驛前 松原運送店 電話一〇二番
○當社ハ滿鐵、日本郵船會社、大阪商船會社ト連帶運送ノ便有之候

京城本町二丁目
名物 天扶羅 **松金**
電話六八六番

元賣販 製造 各種 パッリス
地番四十四百目丁二町井櫻
宮治商店